



# 翔雲

令和 8 年 5 月 9 日 (土) 発行  
伊万里高校 進路指導部

た学習習慣を身につけているということです。毎日決まった時間に机に向かい、やるべきことを淡々とこなす。この積み重ねが、やがて大きな差となります。計画を立てる際には、無理のない現実的な目標を設定し、達成と修正を繰り返すことが重要です。

三つ目は、「基礎の徹底」です。難しい問題にばかり目を向けるのではなく、基本事項を確実に理解し、使いこなせるようにすることが、得点力を高める近道であると思います。基礎が不十分なままでは、応用問題にはとうてい対応できない。地道ではあるが、基礎の反復こそが最も確実な力となるでしょう。

さらに、「振り返り」の姿勢も欠かせません。模試やテストは、単なる結果ではなく、自分の現在地を知るための重要な材料です。間違えた問題を分析し、「なぜできなかったのか」「次にどうすればよいか」を考えることで、学習の質は大きく向上します。できなかったことに目を向ける勇気が、成長を生むと思います。

そして最後にあげるとすれば、「自分を信じる力」です。受験勉強は長く、時に不安や焦りに襲われます。周囲と比較して一喜一憂するのではなく、自分の歩みを信じ、一步一步前進することが大切であると思います。

合格の切符は、偶然手に入るものではありません。目的を持ち、習慣を築き、基礎を固め、振り返りを重ね、そして自分を信じ続けた者だけが手にすることができると思います。その一步一步の積み重ねこそが、未来への扉を開く鍵となるのです。

進路指導部が発行するこの『翔雲』は、皆さんのための貴重な羅針盤です。卒業生の進路状況や模擬試験結果の状況、社会の動きや大学や企業の情報、そして先生方の言葉には、多くのヒントが詰まっています。情報を「与えられる」のではなく、「自ら取りに行く」姿勢が、自立への第一歩です。ぜひ、じっくりと目を通し、自分の進む道をイメージしてください。

「未来は、今この瞬間の選択の積み重ねでできている」と言われます。一步一步を大切に、自分の可能性を信じて、歩んでいきましょう。

**「Your Ambition , Our Future**

**～学びの先に広がる無限の可能性～**

## 「合格の切符を掴むには」

校長 岡本 隆

5月の爽やかな風薫る笹尾台。平成11年度以来の28年ぶりの4月体育祭も終わり、GWを経て、県高校総体、高校野球、席書大会、吹奏楽コンクール等々、3年生にとっては部活動最後の舞台が近づいてきています。そんな中で、将来の自分の人生の大半を決める、「入試」というものが近づいていることも事実です。

3月に本校を巣立っていった卒業生の進路状況を改めて振り返ってみると、「合格」は、単なる「結果」ではなく、日々の積み重ねの先にある必然の到達点であると感じています。多くの受験生が「どうすれば合格できるのか」と考えるのですが、特別な才能や一発逆転の方法があるわけではなく、むしろ、当たり前のことをどれだけ徹底できるかが、合否を分ける最大の要因となっているのではないのでしょうか。

そして、合格の切符をつかむための重要なポイントについて私なりに分析しました。

一つ目は、「目的意識」を明確にすることです。なぜその大学に行きたいのか、そこで何を学びたいのか。この問いに自分なりの答えを持つことが、勉強を継続する原動力となります。目的が曖昧なままでは、努力は長続きしません。逆に、明確な目標があれば、困難な時期でも踏ん張ることができると思います。

二つ目は、「計画と習慣」です。合格する生徒に共通しているのは、特別な勉強法に取り組むのではなく、安定し

# 2026年度入試を振り返って

## 【国公立大学】

### 《1》大学入学共通テスト

＜図表1＞は共通テストの志願者数・受験者数の推移である。志願者数は2024年度に49万人台前半まで減少し、その後も50万人を割り込んで推移している。今春の受験者数も前年並みで推移しているが、前年から約2千人増加した。増加したのは国公立大志望者中心の8科目以上の受験者ではなく、私立大専願者が中心の3科目以下の受験者である＜図表2＞。

＜図表3＞は大学入試センターが公表した共通テストの主要科目平均点の一覧である。「英語リーディング」「数学Ⅱ、数学B、数学C」では平均点がアップしたものの、「英語リスニング」「数学Ⅰ、数学A」「国語」はダウンした。理科では「化学」で平均点アップしたものの、「物理」ではダウン、加えて高得点者が大きく減少した。一方、地歴・公民では科目間の平均点差は小さくおさまった。導入2年目の「情報Ⅰ」は他教科と同程度の平均点となった。

今年の総合型（6教科）の平均得点率（推定値）は文系型・理系型のいずれも60%と昨年よりダウンした。理系のダウン幅が大きく、文系と理系の平均点差が小さくなったことが特徴である。また、＜図表4＞で総合型平均得点率を2022年度を除いた過年度と比較すると、今年は理系の平均得点率が例年より低め、文系は例年並みといえる。

＜図表1＞ 共通テスト 志願者数・受験者数推移

年度	志願者数	受験者数			受験率
		総数	本試験	追試験 再試験	
2021	535,245	484,114	482,624	1,490	90.4%
2022	530,367	488,384	486,847	1,536	92.1%
2023	512,581	474,051	470,580	3,471	92.5%
2024	491,914	457,608	456,173	1,435	93.0%
2025	495,171	462,066	461,188	878	93.3%
2026	496,237	464,090	463,179	911	93.5%

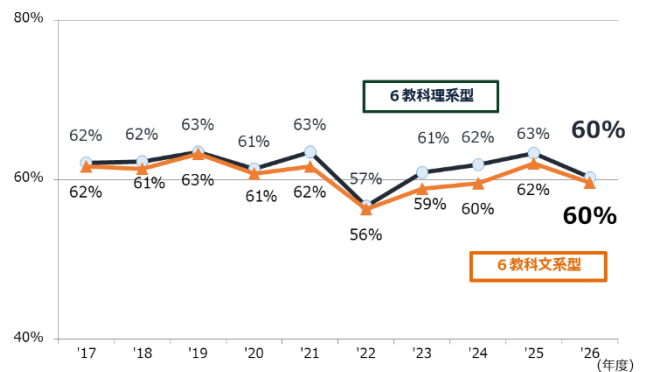
＜図表2＞ 共通テスト 受験科目数別の受験者数

受験科目数	受験者数		
	25年度	26年度	差
8科目以上	272,142	271,975	-167
4～7科目	87,273	86,811	-462
3科目以下	102,651	105,304	+2,653
合計	462,066	464,090	+2,024

＜図表3＞ 共通テスト 主要科目平均点

教科・科目	平均点			
	25年度	26年度	差	
英語	リーディング	57.7	62.8	+5.1
	リスニング	61.3	54.7	-6.7
数学	数学Ⅰ, 数学A	53.5	47.2	-6.3
	数学Ⅱ, 数学B, 数学C	51.6	54.5	+3.0
	国語	126.7	116.4	-10.3
理科	物理基礎	24.8	34.7	+9.9
	化学基礎	27.0	28.6	+1.6
	生物基礎	31.4	36.5	+5.1
	地学基礎	34.5	28.2	-6.3
	物理	59.0	45.6	-13.4
	化学	45.3	56.9	+11.5
	生物	52.2	55.0	+2.8
地歴・公民	地学	41.6	44.3	+2.7
	地理総合, 地理探究	57.5	61.9	+4.4
	歴史総合, 日本史探究	57.0	62.3	+5.3
	歴史総合, 世界史探究	66.1	60.9	-5.2
公民	公共, 倫理	59.7	64.2	+4.5
	公共, 政治・経済	62.7	63.6	+0.9
情報Ⅰ	69.3	56.6	-12.7	

＜図表4＞ センター試験・共通テスト 総合型平均得点率推移



### 《2》 国公立大2次試験

今春の国公立大入試では、共通テスト難化の影響が各所で見られた。＜図表5＞は日程別の志願状況である。前期日程の志願者数は前年並みであったが、後期・中期日程ではいずれも減少した。後期日程は廃止・縮小の影響もあるが、共通テストの平均点ダウンが後期・中期日程への出願見送りの要因の一つになったと推測される。

＜図表 5＞ 国公立大 日程別志願状況

日程	募集人員 (A)				志願者数 (B)				志願倍率 (B/A)	
	25年度	26年度	前年差	前年比	25年度	26年度	前年差	前年比	25年度	26年度
前期	80,437	79,994	-443	99%	235,717	235,165	-552	100%	2.9	2.9
後期	15,445	15,017	-428	97%	159,942	152,809	-7,133	96%	10.4	10.2
中期	2,388	2,410	+22	101%	32,841	31,132	-1,709	95%	13.8	12.9

＜図表 6＞ は大学グループ別の志願状況を示す。

「難関 10 大学」と「準難関・地域拠点大学（準難関大学）」で志願者がやや減少し、「その他の大学」でやや増となっており、受験生の安全志向がみてとれる。

＜図表 6＞ 国公立大（前期日程）大学グループ別志願状況

大学グループ	募集人員 (A)				志願者数 (B)				志願倍率 (B/A)	
	25年度	26年度	前年差	前年比	25年度	26年度	前年差	前年比	25年度	26年度
難関10大学	19,599	19,476	-123	99%	56,174	55,133	-1,041	98%	2.9	2.8
準難関大学	13,896	13,792	-104	99%	44,917	43,878	-1,039	98%	3.2	3.2
その他大学	46,942	46,726	-216	100%	134,626	136,154	+1,528	101%	2.9	2.9

※河合塾調べ（3/13 現在）

※難関 10 大学：北海道、東北、東京、東京科学、一橋、名古屋、京都、大阪、神戸、九州

私立大専願に切り替えやすい関東、東海、近畿といった都市部で国公立大の志願者が減少したのも、共通テストの難化が影響したと考えられる。

学部系統別の動向は、「経済・経営・商」や「工」で志願者が増加した一方、減少が顕著なのは「医・歯・薬・保健」である。

難関 10 大学の志願状況では、東京科学大の志願者減が目立つ。これは理工系で第 1 段階選抜の予告倍率を引き下げたことの影響で、昨年は東京大でも同様の現象が見られた。東京大、京都大の今春の志願者数は前年並み、名古屋大、神戸大、九州大では減少した。

【私立大学】

2026 年度の大学志願者数は前年並みの見込みだが、私立大の延べ志願者数は大きく増加した。一般方式、共通テスト方式ともに前年から約 1 割増となっている。

大学グループでは「日東駒専」「首都圏女子大」「産近甲龍」で増加率が高い。志願者増の背景には大学側が入試方式の複線化や併願割引の拡大など、複数出願を

促す仕組みを整えていることがある。加えて前年度入試で志願者の増加から倍率が上昇した大学で今春はさらに志願者が増加した例がみられ、昨年難化した大学の出願を手厚くした受験生が多かったとみる。

私立大一般選抜の志願者数は受験人口減による入試の競争緩和から 2021 年度以降減少傾向にあったが、昨年から再び増加に転じている。

【総合型・学校推薦型選抜】

1 月中旬時点で各大学が公表していたデータを基に、総合型・学校推薦型選抜の志願状況を分析した。

＜図表 7＞ は国公立大の志願状況を示す。募集人員の増加に比べ志願者数の増加率は低く、総合型・学校推薦型選抜ともに志願倍率はやや低下した。地区間の差も大きくはない。

＜図表 7＞ 国公立大 総合型・学校推薦型選抜志願状況

	募集人員				志願者数				倍率 (志/募)	
	25年度	26年度	前年差	前年比	25年度	26年度	前年差	前年比	25年度	26年度
総合型・学校推薦型選抜	19,453	20,185	+732	104%	48,484	49,101	+617	101%	2.5	2.4
総合型	5,527	5,864	+337	106%	16,977	17,241	+264	102%	3.1	2.9
学校推薦型	13,926	14,321	+395	103%	31,507	31,860	+353	101%	2.3	2.2
地区別										
北海道・東北	3,911	4,064	+153	104%	9,424	9,331	-93	99%	2.4	2.3
関東・甲信越	4,286	4,484	+198	105%	10,286	10,527	+241	102%	2.4	2.3
北陸・東海	1,695	1,784	+89	105%	3,587	3,748	+161	104%	2.1	2.1
近畿	1,580	1,683	+103	107%	5,082	5,139	+57	101%	3.2	3.1
中・四国	4,864	5,010	+146	103%	12,506	12,639	+133	101%	2.6	2.5
九州	3,117	3,160	+43	101%	7,599	7,717	+118	102%	2.4	2.4

私立大では特に学校推薦型選抜で志願者が大きく増加している。文部科学省のデータによると、昨年も一昨年から志願者が 1 割以上増加しており、今年は 2 年連続の大幅増となる見込みである。要因は、併願が可能な選抜区分、なかでも学科試験を課す方式で志願者が大きく増加している点にあると考えられる（併願可能な選抜区分は学校推薦型選抜に多い）。今春の 18 歳人口は前年並みであるため、学校推薦型選抜で複数校へ出願するケースが増えていることが推測される。

地区別では、関東・甲信越と近畿で志願者数の増加が見られる。倍率も上昇しており、前年より入試が厳しくなった大学もあるだろう。

全体として私立大の志願者は増加傾向にあるが、志願者が減少した大学も存在する。前年に志願者が大きく増加した反動で今年は減少したケースや 2 年連続で減少しているケースも見られた。

一般選抜と総合型・学校推薦型選抜のいずれにおいても志願者が増加する大学と、いずれも減少する大学の二極化は、今春いっそう進んだと考えられる。

（河合塾 Guidline 4・5 月号より）

## 【本校の入試結果について】

### ○推薦関係

推薦関係の入試については「総合型選抜」（以下「総合型」）、指定校推薦と一般公募推薦を合わせた「学校推薦型選抜」（以下「学推型」）に分けられる。

総合型については、国立大学に4名、公立大学に1名、私立大学に6名が出願した。結果は国立大に1名、私立大学に5名が合格した。ただし、国立大学合格の合格者は共通テストを課す総合型選抜であり、「校外活動」や「資格」などの自己PRの材料や「やる気」に加えて、「最低限の学力」を身につけた生徒を大学が求めていることがうかがえる。

学推型では、国公立大学に23名が出願し4名が合格（福教大2、佐賀大2）。すべての推薦関係の合格者の合計は、国公立大学5名（前年差±0名）、私立大学23名（同+1名）であった。国公立大学については21.9%と、例年よりかなり低い合格率であった。

今年度の推薦関係の入試において、とくに総合型で苦戦した原因は、準備不足と学力不足の2点に尽きる。選抜する側の大学も最近独自に学科試験や大学入学共通テスト、いわゆる学力を測る試験を課すようになってきた。「志望校に入学したい」という強い熱意が必要であるのは勿論であるが、それだけで合格できるものではない。**大学の募集定員のうち推薦関係の枠が拡大しているから合格しやすい入試と考えやすいが、佐賀県全体の推薦関係の国公立大学の合格率は変化しておらず、合格しやすい入試とはいえない。**「熱意なら誰にも負けないから」「まともに一般入試を受験しても合格する見込みはないから」「チャンスが増えるから」などという安易な理由で推薦関係の入試に挑もうとするのなら考え直した方がよい。

**推薦関係の入試に対する受験準備には相当な時間と労力を要する。合否の発表が遅い大学もある。不合格となった場合の気持ちの切り替えの難しさもある。いくつものリスクを抱えながらの受験となるので、それに見合うだけの人物と学力、学業以外のアピールできる活動実績、明確な志望理由と覚悟が揃っていることが必須条件であり、担任の先生や保護者としっかり話し合った上で出願を決定すると同時に、十分な対策をして受験に臨むことが重要である。**

### ○国公立大学

国公立大学の現役合格者の総数（実人数）は、上記の推薦関係の合格者も含めて53名であった。

文理ともに得点率8割以上の高得点層が前年度から大幅に減少した今年度の共通テストの結果を受けて、全国的に弱気の出願傾向がみられ、本校でも第一志望の大学を変更せざるを得ない生徒が多かった。自分の得意科目を最大限に活かせる受験の仕方を考え、担任の先生との入念な面談を重ね、各生徒がそれぞれ自分の進路について熟考して出願した。

一般受験の結果は前期43名、後期5名の合格であった。やはり、後期の合格を勝ち取った生徒は、共通テストの得点が高い生徒であった。

今年度の特徴としては、「自分に有利な受験」を軸に判定が悪くても逆転が可能かどうか冷静に自己分析し、最後まで諦めることなく努力を続けた生徒が合格を勝ち取っており、共通テストの結果は良くなかったが、ボーダーからのマイナスが大きいD、Eの判定からの逆転合格者の数が多かった。

### ○私立大学

私立大学については、合格者数は延べ人数であるが、九州産業大学に50名、西南学院大学に5名、中村学園大学に10名、福岡大学に48名（過去5年中最多）、福岡工業大学に27名、久留米大学に46名、地元の西九州大学に17名、隣県の長崎国際大学に4名と、九州地区の主要私立大にも厚みのある合格実績をあげた。この中には、併願していた国公立大学にも合格した生徒も多く、国公立大対策を積むことが私立大対策にもつながるといふ事実を再確認することができよう。

### ○短期大学

私立短期大学である福岡短期大学、中村学園大学短期大学部、西九州大学短期大学部に各1名、福岡工業大学短期大学部に3名の6名が合格した。

## ○専門学校

専門学校への最終進学者は33名で、うち看護医療系の専門学校へ進学した生徒は10名であった。看護医療系の合格は19名（佐賀県医療センター好生館看護学院、嬉野医療センター附属看護学校、佐世保市立看護専門学校など）であった。入試においてはとくに面接が重視されるが、しっかりした生活態度と、医療問題だけに限らない社会問題への広い関心も大切である。容易に合格できない難度であるのに加えて、推薦関係の入試で年内合格者がここ近年増加の一途をたどり、年明け入試は少ない椅子を奪い合う激戦となる中で、粘り強く受験勉強に取り組む合格通知を手にした生徒も少なくなかった。

## ○就職

就職については、4名であった。これについても、早期からの計画的な準備と対策が必要である。

本校の場合、大部分の生徒が大学進学を希望しているが、専門学校や就職など進路希望は多様である。いずれの場合も、進路目標を早く定めることが肝心であり、そのためには、生徒一人一人が自分の将来について1年次より真剣にかつ具体的に考えることが最も重要である。そして、希望する進路の実現のためには毎日着実に努力を積み重ねること、何よりしっかりした学力を身につけることが必要であると同時に、部活動や学校行事に積極的に取り組むことや挨拶や掃除の励行など、社会性や人間性を高めることも重要であることを忘れてはならない。



## 2029年3月の自分は？

1 学年主任 横田 健彦

—三年先の稽古— この言葉は目先の勝敗や成果にとらわれず、3年後に大成することを見据えて、地道な基礎練習や身体作りに励むべきだという大相撲の世界の教えといわれるもの。「継続することの重要性」を説いており、結果はすぐに出ずとも腐らず頑張ることと実を結び、花は咲く。だいたいそんなにすぐ形になるもの、手に入れることができるものがあるはずもない。あったとしたらそれにどれだけの価値があるのか。3年後、自分はどうなっていたいのかを思い、そこに向けてコツコツ、コツコツ。まあ、それがなかなかできなのだけれど…（悲）。「桃栗三年柿八年」

—思い立ったが吉日— だからさあ始めよう、小さなことでいいから。今日から。「明日から」という人は、たいてい「今日はとりあえず机の周りを整理しよう」（いわゆる「逃避」ですね。）や「区切りよく週末から」となる。でもそういう人はまた「〇〇〇が終わったら始めるぞ」と言うことしばしば。結局いつまで経っても何も始めない。そして、気づけばいつの間にか数か月が経ってしまった…（悲）。「明日やろうは、バカやろう」

3年後のあなたはどこに向かって歩いていますか。

## 「ハンバーガー」

2 年学年主任 仁部 智之

ハンバーガーを食べことはありますか？私は好きでよく食べます。何を注文しようか悩みます。高校2年生はハンバーガーで例えると上下をバンズに挟まれた一番大事な部分です。どんな具材・味付けにするかで完成品が大きく変わってきます。1年次に土台のバンズができました。さて、これからの1年が完成品をより魅力的なものにする、大事な期間です。具材をより大きく、魅力的な味付けにして3年生を迎えてください。さて、新年度がスタートして1カ月が経ちましたが、良いスタートが切れましたか？今年の2年生のスローガンは「自立・継続・挑戦 ～進路実現に向

けた確かな一歩〜」です。今年度は伊高祭体育の部の4月開催。また、平常45分授業実施、MIRAI進学科のスタートと大きな変革の年になります。より一層、自分で考え、判断することが大切になる1年になります。この1学期にしっかり自分のリズムを作り、目標に向かって努力を継続してください。失敗を恐れず挑戦し続けることで、力は確実に伸びていきます。今の積み重ねが未来の自分をつくることを信じ、一步一步着実に歩んでいきましょう。最後に京セラやKDDIの創業者の稲盛和夫さんの言葉を紹介します。「もうダメだ、無理だというのは通過地点にすぎない。すべての力を尽くして限界まで粘れば、絶対に成功するのだ。」頑張ってください！

## “DEAR, COLLEGE STUDENTS TO-BE”

3年学年主任 木村 太亮

「高校3年生」

特別な言葉の響きですよね。そうです、私は4月からの各校内会議や後援会役員会など、折に触れ、「1年生のために・・・」「3年生のことを優先して・・・」という言葉を目にしてきました。君たちの進路確定に向け、これまで、そしてこれからますます周囲の方々にお世話になる機会が増えていきます。大人だけではありません。部活動では後輩たちが、各行事では学校や地域全体が「最後で最高の舞台」を準備してくれているはず。プレッシャーも高まってくるでしょう。存分に感じ取ってください。そこから逃げることなく、向き合い、乗り越えてこそ成長があり、その先にある大学生としての一歩を力強く踏み出すことができるのですから。

♪ Like a blue, bitter springtime of lifetime I'll wait for you, right here

Lifetime wounds that start to hurt, I want to love them

Though we don't have a way to find them, us that tend to forget "That"

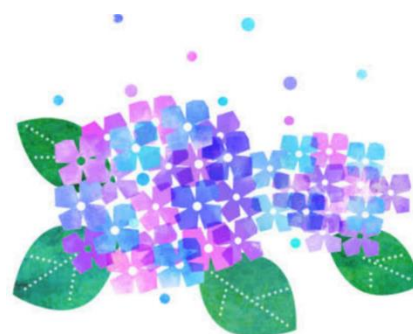
## What do we go through and what do we obtain to become grown ups

今や国民的知名度を得たバンドの有名な歌の英訳歌詞(サビ)です。誰の何の曲かわかりますか。

私は英語の映画や歌の字幕、同じく日本語が英訳されたものを見聞きしてニュアンスの違いや言い換えの妙、または限界を感じて楽しんでいます。AIが日進月歩で日常に浸透し、同時通訳までしてくれる時代になった現代において、英語(外国語)学習は必要ないという人もいます。しかし、「感じる」ことは人間にしかできないことです。コミュニケーションの一番大切な要素ですね。高校でまいた種(基礎学力)は大学において芽吹き、大人になって様々な花を咲かせて実っていくことでしょう。「何を経て何を<sup>3</sup>得て大人になっていくんだろう」・・・そう、楽しい人生が待ち受けていますよ。「その時」を迎えられるよう「今」、腹いっぱい努力しましょう。受験勉強に「没頭」しよう。私が度々引用する次の言葉を再掲して「高校3年生」へのエールとします。

「人生は日々の小さな選択が重要なのであって、その積み重ねが大きな選択につながっている」

Shad Helmstetter, Ph.D.



## 進路年間行事

月	日	内 容
6	8	3年 放課後特課開始 ～7/23
	6	3年 進研共通テスト模試（7まで）
	6	3年 学年保護者会
	13	3年 看護医療模試（希望者）
7	4	全学年 進研記述模試（3年5まで）
8	3	3年 全統共通テスト模試（4まで）
	17	3年 全国国公立大模試（希望者）
	17	3年 関関同立大模試（希望者）
	18	3年 夏季特課開始 ～21
	18	1・2学年 全統模試（希望者）
	19	1・2年 夏季特課開始 ～21
	22	全学年県下一斉模試（3年23まで）
9	12	3年 看護医療模試（希望者）
	18	3年 進研共通テスト模試（19まで）
10	3	1.2年スタディサプリ到達度テスト
	3	3年進研記述模試
	17	全学年 全統模試（希望者）
	24	3年 全統共通テスト模試（25まで）
	31	3年 県下一斉模試、1.2年進研模試
11	1	3年 県下一斉模試、2年進研模試
	21	3年 全統プレ模試（22まで）
	29	3年 全国国公立大模試（希望者）
	29	3年 関関同立大模試（希望者）
12	19	3年 東進共通テスト（20まで）
1	9	1.2年 県下一斉模試（2年10まで）
	9	3年 共通テストKパック（10まで）
	22	1.2年 進研模試（2年23まで）
	30	1年 全統模試（希望者）
	30	2年 進研マーク模試（31まで）



伊万里高校公式キャラクター  
伊万里（MIRAI）未来ちゃん